

基礎看護学Ⅳ

責任者・コーディネーター	共通基盤看護学講座 菫蒲澤 幸子 教授		
担当講座・学科(分野)	共通基盤看護学講座		
対象学年	1	区分・時間数	講義 22.5 時間
期 間	後期		
単 位 数	2 単位		

・学習方針（講義概要等）

対象の看護ニーズに適した看護を展開するための基盤となる看護過程について学ぶ。看護の実践を支える多くの理論がある。それぞれの看護理論はどのように看護の対象を捉え、看護そのものを捉えているのか、紐解いていく。そこから看護のアセスメントの視点を見出し、看護ニーズのアセスメントの方法、看護計画立案、実施および評価の過程にそって、看護を論理的に進める方法を理解する。

・教育成果（アウトカム）

個人ワークやグループワークを通して、看護過程の一連の流れについて知識として理解し、看護実践に活用するための方法を修得することができる。また、看護理論から導き出される看護の視点を理解できる。

【学位授与方針と当該授業科目との関連】

ディプロマ・ポリシー：3, 4, 5

・到達目標（SBO）

1. 看護を展開する際に、理論や概念を活用する意義と方法について説明できる。
2. 看護過程とは何かについて説明できる。
3. 対象理解のための情報収集について説明できる。
4. 収集した情報を科学的根拠に基づいてアセスメントする方法を説明できる。
5. 対象者のより良い健康状態をめざすために必要な専門知識の活用を説明できる。
6. 看護ニーズを明確化し、優先順位を決定する方法を説明できる。
7. 看護目標を設定し、具体的に計画立案・実施する方法を説明できる。
8. 実施した看護を評価する方法を説明できる。

・ 授業日程

(矢) 西 1-A 講義室、 (矢) マルチ 2-A 実習室、 (矢) マルチ 2-B 実習室

【講義】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	授業内容/到達目標
9/16	木	1	共通基盤看護学講座	菖蒲澤 幸子 教授	看護過程とは何か クリティカルシンキングと EBP リフレクション ・看護過程とは何かについて説明できる ・クリティカルシンキングと EBP(Evidence Based Practice)の考え方について説明できる
9/27	月	4	共通基盤看護学講座	菖蒲澤 幸子 教授	看護過程に活用できる理論や枠組み ・看護過程に活用できる理論や枠組みについて説明できる
9/30	木	1	共通基盤看護学講座	柏木 ゆきえ 特任准教授	看護過程アセスメントの枠組み ・アセスメントの枠組みを用いた情報の整理のポイントをあげることができる
10/18	月	4	共通基盤看護学講座	菖蒲澤 幸子 教授 柏木 ゆきえ 特任准教授 小林 由美子 講師	事例(A)を用いての看護過程① (個人ワーク含む) ・提示された事例について記録用紙に沿って、情報の整理をすることができる
10/21	木	4	共通基盤看護学講座	菖蒲澤 幸子 教授 柏木 ゆきえ 特任准教授 小林 由美子 講師	事例(A)を用いての看護過程② (個人ワーク含む) ・提示された事例のアセスメントをすることができる
10/29	金	2	共通基盤看護学講座	菖蒲澤 幸子 教授 柏木 ゆきえ 特任准教授 小林 由美子 講師	事例(A)を用いての看護過程③ (個人ワーク含む) ・提示された事例のアセスメントをすることができる
11/5	金	2	共通基盤看護学講座	菖蒲澤 幸子 教授 柏木 ゆきえ 特任准教授 小林 由美子 講師	事例(A)を用いての看護過程④ (個人ワーク含む) ・提示された事例の関連図を作成することができる

11/11	木	1	共通基盤看護学講座	菖蒲澤 幸子 教授 柏木 ゆきえ 特任准教授 小林 由美子 講師	事例(A)を用いての看護過程⑤ (個人ワーク含む) ・提示された事例の看護計画を立案することができる
11/18	木	4	共通基盤看護学講座	柏木 ゆきえ 特任准教授	看護計画の評価 看護記録について ・提示された事例の看護計画の評価をすることができる ・看護記録の目的・意義について説明することができる
11/26	金	3	共通基盤看護学講座	菖蒲澤 幸子 教授 柏木 ゆきえ 特任准教授 小林 由美子 講師	事例(B)を用いての看護過程① (個人ワーク) ・提示された事例について情報の整理・アセスメント・関連図を作成することができる
12/3	金	3	共通基盤看護学講座	菖蒲澤 幸子 教授 柏木 ゆきえ 特任准教授 小林 由美子 講師	事例(B)を用いての看護過程② (グループワーク) ・グループワークでアセスメント、関連図までを個人ワークで作成したものを基に検討しまとめることができる
12/10	金	3	共通基盤看護学講座	菖蒲澤 幸子 教授 柏木 ゆきえ 特任准教授 小林 由美子 講師	事例(B)を用いての看護過程③ (グループワーク) ・個人ワークの内容をグループワークでまとめ、小グループ毎に発表し、評価の視点に基づいた自己評価他者評価を行うことができる
12/17	金	2	共通基盤看護学講座	菖蒲澤 幸子 教授 柏木 ゆきえ 特任准教授 小林 由美子 講師	事例(B)を用いての看護過程④ (個人ワーク) ・提示された事例の看護計画を立案することができる
12/20	月	3	共通基盤看護学講座	小林 由美子 講師	事例(B)を用いての看護過程⑤ (事例Bのまとめ) ・事例B看護過程の流れを振り返り、改善点がわかる

1/6	木	3	共通基盤看護学講座	菖蒲澤 幸子 教授	看護過程展開の基盤となるもの 看護診断とは ・看護診断とは何かについて説明できる
-----	---	---	-----------	-----------	--

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術 第6版	志自岐康子 編集	メディカ出版	2021

・成績評価方法

定期試験 70 点、看護過程ワークの成果 30 点の合計 100 点とする。

・特記事項・その他

【事前事後学修の具体的内容及び時間】

看護過程のワークの事前学修においては、同時期に履修する解剖学・生理学・病理学の復習を丁寧に行うこと。グループワークの場合、各自が事前学修を実施していることを前提にすすめるので、必ず自己学修を踏まえた考えを記録して臨み、有効なディスカッションをすること。各授業について、最低 30 分の事前学修を要する。授業終了後は、教科書・配付資料等を用いて積極的に自己学修を行い、知識と理解の定着に努めること。

【授業における試験やレポート等の課題に対するフィードバック】

課題に対するフィードバックは、全体で共通することは次回の講義で行う。また、必要時、個別でフィードバックを行い、看護過程の理解を促していく。

【保健師助産師看護師学校養成所指定規則教育内容】

看護師（別表 3）：専門分野 I 基礎看護学

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	プロジェクター	1	講義用スライド投影
講義	書画カメラ	1	講義用資料投影